

《宮城県知事、女川町長、石巻市長による女川原子力発電所の視察が行われました》

8月6日、宮城県知事、女川町長、石巻市長の3首長による女川原子力発電所の視察が行われました。今回の視察は、女川2号機について、新規制基準への対応に伴う地震・津波対策や重大事故対策等の状況を確認するために行われたものです。

当日は、津波対策の一つである海拔約29mの「防潮堤」の建設状況や、原子炉建屋内における「耐震工事」の状況、万が一重大事故が発生した場合、外部への放射性物質の放出を可能な限り低減させる「フィルター付格納容器ベント装置」の設置状況など、安全対策工事の現状を視察いただきました。

視察終了後の講評では、村井知事から「発電所の視察は平成23年4月以来であり、9年の時を経て、安全対策工事が着実に進められている状況を確認することができ、現場状況の変容ぶりに大変驚いた」との感想や、「これまで以上に協力企業の作業員も含めた教育・訓練に力を入れて取り組んでほしい」などの意見をいただきました。

また、須田町長からは「防潮堤や耐震工事など安全対策がとられている様子が実感できた。発電所には多くの作業員が従事しており、働きやすい環境をつくることで、より安全性に対する意識も高まることから、東北電力全体でつくり上げてほしい」、亀山市長からは「さまざまな安全対策が進んでおり大変力強く感じた。今後も工事計画や保安規定の審査にしっかりと対応していただくとともに、住民への情報提供を丁寧にお願したい」などの感想や意見をいただきました。

当社といたしましては、今後とも安全対策工事や新規制基準適合性審査に全社を挙げて取り組むとともに、「安全対策に終わりはない」という信念のもと、幾重もの対策を一つ一つ積み重ね安全性の向上に努めてまいります。また、こうした状況について、地域の皆さまをはじめより多くの皆さまへの分かりやすい情報提供に努めてまいります。



防潮堤の視察の様子
(右から亀山市長、須田町長、村井知事)



原子炉建屋内の視察の様子
(右から村井知事、須田町長、亀山市長)



視察終了後に講評する村井知事

《宮城県主催の住民説明会で女川原子力発電所の安全対策について説明させていただきました》



女川原子力発電所の安全対策について説明する
増子東北電力副社長

8月1日から19日にかけて、宮城県の主催により「女川原子力発電所に関する住民説明会」が開催されました。

本説明会は、主に女川原子力発電所からおおむね30km圏内に在住、通勤・通学されている方を対象として、女川町と石巻市、東松島市、南三陸町において計7回開催されたものです。当社も事業者として出席し、女川原子力発電所の安全対策について説明させていただきました。

当社といたしましては、安全性の向上や新規制基準適合性審査に、引き続きしっかりと取り組むとともに、こうした当社の取り組みの状況をさまざまな機会を捉えて丁寧に説明してまいります。

《女川原子力発電所1号機の廃止措置作業に着手しました》

7月28日、女川1号機の廃止措置に関する最初の作業として、機器・配管に付着した放射性物質を除去する作業に着手しました。

今回の作業は、廃止措置の作業を担当する放射線業務従事者の被ばく線量を低減させるため、原子炉周辺の比較的多くの放射性物質の付着が想定される機器や配管を対象に、高圧洗浄装置を用いて放射性物質を除去するものです。

廃止措置の作業にあたっては、引き続き安全確保を最優先に取り組んでまいります。

また、廃止措置の実施状況につきましては、当社ホームページにおいて毎月お知らせするとともに、発電所だより等の広報媒体を活用し、地域の皆さまへの分かりやすい情報提供に努めてまいります。



高圧洗浄装置を用いて配管に付着する放射性物質を除去する様子

《女川原子力PRセンターリニューアル情報～パート1～》

女川原子力PRセンターでは、原子力をはじめとしたエネルギーの現状を楽しみながら学べるよう、館内の各コーナーをリニューアルしましたのでご紹介します。

発電所バーチャル見学を始めました

現在、安全対策工事を進めている「発電所構内」および「2号機建屋内」をVR(仮想現実)映像で見学できるようになりました。

360度カメラで撮影した実際の発電所の状況を、迫力ある大画面スクリーンやVRゴーグル※でご覧いただけます。皆さまのご来館をお待ちしております。



AIアテンダントのあいちゃんがご案内します。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、当面の間、VRゴーグルの使用は控えさせていただきます。使用可能になりましたら、改めてお知らせします。



ご来館される際は、マスク着用、検温、手指の消毒などにご協力をお願いします。詳しくはこちらのQRコードよりご確認をお願いします。



《2019年度原子力防災訓練の評価結果について》

7月28日、原子力規制委員会の第12回原子力事業者防災訓練報告会において、2019年度に国内18カ所の発電所で実施された訓練の評価結果が報告され、当社東通原子力発電所が最も高い評価、次いで女川原子力発電所が2番目に高い評価をいただきました。

これまでの訓練は、評価指標に基づき、「確実な通報・連絡の実施」や「訓練シナリオの多様化・難度」などの項目について、A・B・Cの3段階でのみ評価されていましたが、今回からは、各項目の達成度を反映した点数による評価も追加されました。

当発電所の訓練※においては、特に、事故の進展予測や収束に向けた対応戦略などを原子力規制庁と確実に情報共有できている点などが高く評価されたものと考えております。



2020年2月21日の訓練の様子

当発電所は、今回の評価結果に満足することなく、今後も、さまざまな災害が発生した場合のさらなる対応力向上に向けて、各種訓練に取り組んでまいります。

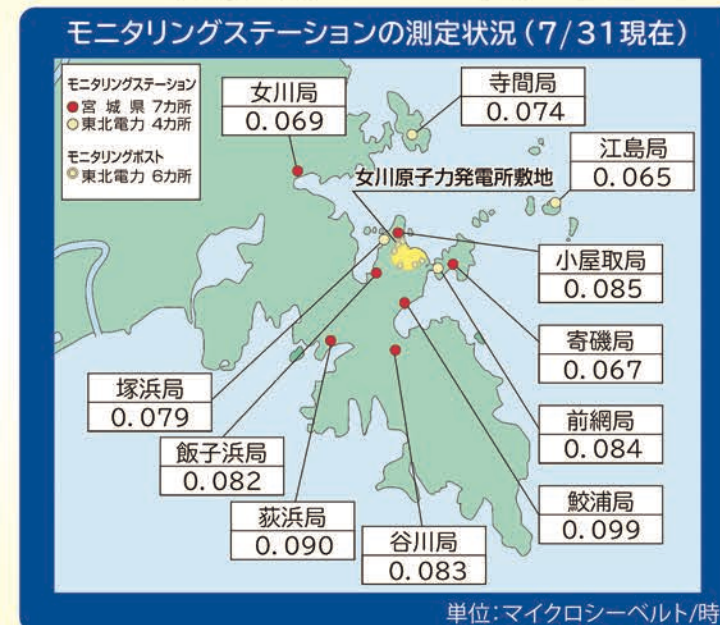
※訓練の内容は、発電所だより3月号をご覧ください。

評価結果の詳細については、原子力規制委員会ホームページ「第12回原子力事業者防災訓練報告会」に掲載されています。

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.046マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考) モニタリングポストの最小値と最大値※3

| 〈東北地方太平洋沖地震発生日〉 | |
|------------------------------|-------------|
| 2011年 3月11日 | 0.027~0.064 |
| 〈地震発生後最大値〉 | |
| 2011年 3月13日 | 1.8~21※4 |
| 〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉 | |
| 2012年 4月 1日 | 0.063~0.098 |
| 2013年 4月 1日 | 0.055~0.076 |
| ? | ? |
| 2019年 4月 1日 | 0.036~0.051 |
| 2020年 4月 1日 | 0.034~0.055 |
| 2020年 7月 1日 | 0.033~0.051 |
| 2020年 7月 31日 | 0.033~0.046 |

単位: マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。